

報 友 会 電 縄 沖

令和 8 年 1 月

第 70 号

延壽萬歳

碧鳳



延壽萬歳 えんじゅばんざい
大城稔 (碧鳳) 書

目 次

新年のご挨拶	2
沖縄電同友会会長 仲本 榮章	2
NTT西日本沖縄支店支店長 古堅 誠	3
電友会本部日より	4
○第88回理事会模様	4
○ボランティア活動表彰式	4
地方本部日より	5
○活躍する会員	5
○退職者の皆様との交流会開催	9
○電友会うないだより	10
○秋季囲碁大会開催	11
がんじゅう広場	12
○今年の年男・年女	12
NTT日より	14
○退職者の皆さまとの交流会開催	14
○AI読書感想対話システム体験展示	15
○古堅支店長ROKラジオ番組出演	16
○MABU太鼓	17
「二万人のエイサー踊り隊」で演舞を披露	17
○第十九回フードドライブ活動を実施	18
○「防災の日」に琉球朝日放送番組で	18
災害用伝言ダイヤル(171)をPR	19
○NTT西日本杯全沖縄高等学校	20
ソフトテニス大会開催	20
○点字電話帳(沖縄県版)を	21
沖縄県視覚障害者福祉協会へ贈呈	21
文芸コーナー	22
○随想	22
○短歌・俳句・川柳・琉歌	25
お知らせ・電友会サークル活動のご紹介	26
編集後記	28
謹賀新年	29



新年のご挨拶

沖縄電同友会 会長 仲 本 榮 章

逝く者は斯くの如くなれども、未だ嘗て往かざるなり。
 盈虚する者は彼のごとくなれども、卒に消長する莫きなり。
 蓋し将に其の変ずる者よりして之を觀れば、則ち天地も
 曾て以つて一瞬なる能はず。

「赤壁賦」一部抜粋。蘇軾作

ボランテア表彰を受けた知花さんの案内で嘉手納町長にお会いした。

四期目の當山市長は、市長室に張られている大型の嘉手納町全図を指差しながら知花さんの村を紹介した。今更ながらほとんどを基地が占める状態に亜然とする。ご存知だろうか、基地の中には沖縄戦における日本軍の降伏調印式が行われた場所があることを。私は黙認耕作地で根菜類の栽培をしている幼なじみや、基地内レストランのうまい骨付きのスペアリブを思い返していたが話題は嘉手納町の出身で沖縄の偉人の一人である野國總管に移った。中国の福建省から芋を持ち帰り当時の琉球の飢饉を救い、鹿児島を起点に全国に

広がり薩摩芋と呼ばれた。(本当は琉球芋)

いわば日本の救世主たる野國總管は実は実名ではありません。「總管」は進貢船における役職名であり、本名はまだ不明ですがそれらしき名前がありますと教えてもらいました。その際嘉手納町と福建省との関わりについて質問をしました。特に嘉手納町が福建省との交易があったというわけではなく、野國總管は当時福建省と交易のあった久米村で總管まで上り詰めたとのこと。

市長室には2本の三線が飾られている。一つは蛇皮の見事な三線、もう一つは福建省經由で持ち込まれた三線の原型である三絃(サンシェン)それに中国の陶磁器類、

県内の何ヶ所かの市長室を訪問したが、漆器 紅型 焼物・・・やはり中国由来が多い。

日本の伝統楽器で雅楽で使われる笙(しょう) 龍笛・箏・琵琶など、特に尺八は中国の洞簫(どうしょう)が元になり箏は中国の古箏(グーチェン)がルーツであるといわれている。

昨年の三月日中友好の一環として三線サークルと福州の師範大学の教授・音楽院学生を交えての演奏と、更に尺八・二胡の演奏が沖縄タイムスに紹介された。そして「古都首里まちづくり期成会」

の新年長に仲里朝勝さんが選任され、今年の首里城復元を見据えたまちづくりを加速させる。さらには糸満市座波の成り立ちや歴史をまとめた「座波字誌」を十六年かけて完成、編纂委員会を代表して金城勇さんがクローズアップされ、いづれも沖縄タイムスで大きく紹介された。

他の地方本部ではボランテア表彰の選出で人材が少なく困っているところもあると聞いているが沖縄は人材豊富である。一隅を照らすボランテアから県下を照らすリーダーまで綺羅星ごとく輝く。

沖縄は日本列島で唯一の海洋性亜熱帯気候、その風土が織りなす独自の歳時記はーサトウキビの白銀の穂先、月桃、春になれば紋白蝶が飛び通い、つつじが咲き誇るーそして海の華、沖縄ブルーが本島と島々を彩る。

日中関係は不穏なままで年を越して未だに先が見えない。冒頭にあげた書き下し文は中国の文学者蘇軾の作品で三国志で高名な「赤壁の戦い」も登場する。松尾芭蕉初め多くの俳人・作家に影響を与えたといわれる。

ー友人と舟遊びをしながらの短い人生、儚さを嘆きながらも月の満ち欠けはあつても月が無くなることはない。人も同じであるということを知る。自然の永遠性と一体になる喜びを歌い上げていますー本年も電友会は楽しい企画が目白押し。まずは「青春歌声喫茶バスツアー」 懐かしい歌の数々を合唱してランチビュッフェ。「新春講演会」をテレコムサービス協会との協賛実施。万国津梁を胸に日中友好演奏会の実施など等。宝島の美しい自然と一体になりながら、県外の四季の風物や海外へも手を広げ、友情と親睦の輪をひろげましょう。



新年のご挨拶

NTT西日本沖縄支店 支店長 古 堅 誠

新年あけましておめでとうございます。
新しい年を迎えるにあたり、ご

挨拶を申し上げます。

私事とはなりますが、前職ビジネス営業部長から昨年七月に支店長に就任いたしました。就任以後、退職者の集い等の様々なイベントでもご挨拶をさせていただきましたが、改めて本誌上でも着任のご報告をさせていただきます。

さて、二〇二五年は、県内では、ジャングリアの開業や沖縄尚学の夏の甲子園制覇等、オリオンビールの東証プライム再上場等、明るいニュースが多い一年でした。

一方で、全国では、豪雨等で甚大な被害を受けるなどの自然災害も多くあり、また、日本初の女性総理大臣が誕生する等、社会・経済・政治の各分野で様々な動きがあった年だったと感じています。

世界情勢も含め、世の中はまさに激動の時代が続いていますが、沖縄支店では、「これまでもこれまで」沖縄の皆さまとともに「という変わらぬ思いのもと、諸先輩方から受け継いできた『つなぐ使命』を果たすべく安定した通信サービスの提供に努めるとともに、AIカメラによるアマチュアスポーツ配信サービス「マチュスポ」の導入や、道路標識の補修を効率化するAudin AIの実証実験を進める等、今後の沖縄県の地域活性化に資する新たな取組みにも積極的にチャレンジしてまいりました。

この他、昨年に続き万人のエイサーなど、様々な地域イベントにも積極的に参画する等、とても実りの多い一年にすることができたと思っています。

また、十一月十七日には、「退職者の皆さまとの交流会」を開催し、電友会の皆さまをはじめ、退

職者の皆さまとの親睦を深められたことを大変嬉しく思っています。

昨年も電友会の皆さまから多大なご支援をいただきました。例えば、南北大東ケーブルの敷設にあつた「きずな」の乗船見学会に際しては、多くの電友会様、またそのご家族にもご参加いただき盛り上げていただきNHKにもその様子を報道いただきました。

この他にも、瀬長島での清掃活動等の社会貢献活動をはじめ、電友会の皆様に多くの食料品をご提供いただいた「フードドライブ活動」、設備一〇番や安全パトロール等、皆さまには、様々な場面でお力添えをいただきました。こうしたご支援は社外プレゼンスの向上にも繋がっています。皆さまからの温かいご支援に心より御礼申し上げます。

情報通信市場では、NTT法が見直しされ、社名も「NTT西日本株式会社」となる等、時代の変遷を感じさせる動きもございますが、いつの時代においても、通信で人と人をつなぐことの重要性やお互いに助け合い、支え合う、結

の精神の大切さは変わるものではありません。

二〇二六年も、ICTやAI等の最新技術の社会実装を推進し、お客様一人ひとりの暮らしを豊かにするとともに、沖縄県の社会課題の解決や自治体・顧客企業の発展にも貢献していくことで、沖縄の皆さまとともに成長していける一年にしたいと思います。

そのためには、電友会の皆さまのご理解とご協力が欠かせません。皆さまがこれまで築き上げてこられたものをしっかりと受け継ぎながら、沖縄を更に元気にするために、地元出身者としてより一層様々なことに積極的にチャレンジしていきたいと考えていますので、引き続きのご指導・ご鞭撻と事業活動へのお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆さまの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

第八十八回理事会開催

令和七年十一月十二日（水）KKRホテル東京で、第八十八回理事会が開催され、仲本理事が出席されました。

議事は、次のとおりです。

- (1) 会長あいさつ
- (2) 第三十五回ボランティア活動賞、第十一回ボランティア活動功労賞について（審議）
- (3) 「g o o ブログ」終了に伴う電友会ホームページの更改について（報告）
- (4) N T T のシンボルマーク及びロゴタイプの変更に伴う電友会旗の見直しについて（周知）



第 35 回「ボランティア活動賞」表彰式開催

令和7年11月12日（水）KKRホテル東京にて、第35回ボランティア活動賞並びに第11回ボランティア活動功労賞の表彰式が開催されました。

沖縄地方本部から、知花賢宜さんが「ボランティア活動賞」、崎浜秀恒さんが「ボランティア活動功労賞」を受賞しました。お二方ともご家族で表彰式・祝賀会に出席され良い記念日となりました。



地方本部だより

活躍する会員

ボランティア活動賞

「しまくとうばを子孫代々まで残す活動とともに、地域交通安全に取り組む」



知花 賢宜
(沖縄地方本部)

○しまくとうば(沖縄方言…ウチナーグチ)継承活動の動機
友人・仲間同士では、話していた「ウチナーグチ」が、公の場ではなかなか話せない。それというのは敬語等が分らない(子供の頃は方言だけ使っていたので、方言札を掛けられていたが、いつの間にか標準語が上手くなっていった)ので、実践すればいいんじゃないか。と思うのも束の間、先ず、郷友会・自治会で間違ってもいいからと

ウチナーグチで話していると地元FM局で縁が合つて番組をもつようになりました。私のウチナーグチ生放送で地域の話題を話したところ、地球の裏側ブラジルで、ネットラジオで聞いた同郷の人々が涙したそうだと、これを機にもっと楽しい話題を提供しようと思ひ甲斐に繋がり元気をもらい私も涙グルグル。ウチナーグチ・国頭語・宮古語・八重山語・与那国語がユネスコにより消滅言語に認定されて十五年目になり、組踊・琉球舞踊・古典・民謡・沖縄芝居・空手・地域の伝統行事では、地域のしまくとうばが使われ、芸能・文化の「根底」は「しまくとうば」にあります。私は、「しまくとうば」が人々の心を育み沖縄人(ウチナーンチュ)としてのアイデンティティーに繋がっていると思っています。

○登校時の交通安全活動(ハタフヤー)の動機

六十五歳定年後、朝型から夜型へ。規則正しい生活しないと唐旅が近いことを悟り、朝の「交通安全・ハタフヤー」を始め子

供達から元気をもらっています。

「おはようございます」と声掛けると、「おはようございます」と元気な声が返ってくる。「車に気を付けて行つてらっしゃい」と、児童生徒の後ろ姿を見ながら「学校まで無事に着いてくれよ」と心の中で呟く毎朝の規則正しい生活が続いており



○千原エイサーinハワイ演舞でのハワイ人の思い

二〇一三年八月三十日から二日間、31th Okinawan Festival in Hawaiiが、ダイヤモンドヘッドが見えるカピオラニ公園



でありました。そこには沖縄県人二世・三世・四世が、「ウチナーすば・天ぷら・砂糖油揚げ」などテント張りの出店があり、まさにその光景は沖縄そのものでした。

エイサーを観賞した八十歳前後の二世おばあさんが、私に駆け寄って来て、「沖縄に居た頃、ウークイの夜、三線の音・太鼓の音を聞いて、追っかけまわした子供の頃の思い出が今蘇り、この祭りは沖縄の空気を感じ、肝心(チムグクル)が和らぎます」と話しておりました。

三線・太鼓・エイサー・ウチナーグチなど、どっぷり浸かるウチナーの音・匂い、その空気

感で癒され、ハワイのウチナーンチュにとつては「アイデンティティー」の再確認のように思えました。

○紙芝居が大画面に

去年の文化祭、今年の「しまくとぅば大会」でウチナーグチ紙芝居「天川坂（アマカワビラ）」を行いました。

私が、ウチナーグチで語りながら、B4版の紙芝居を引くと、舞台の大型スクリーンに映画のように、その絵が映し出されます。昔の「無声映画」はその絵の動きに活動弁士が語りか



けましたが、この紙芝居の絵は動きません、大画面の迫力に圧倒され観客はくぎ付けとなり、映画に勝るとも劣らないこの紙芝居、まさにIT活用の事例だと実感しました。

○感想

今振り返ってみると、五十二年前二十四歳の時のローターアクト活動がボランティアの原点だったように思います。

この度は、子供・孫に誇れる「ボランティア活動賞」をいただきありがとうございます。今

後の励みとなり、たいへん嬉しく思います。

この大賞は「知花君、まだまだこれからだよ。もっと頑張れよ」という賞だと思っています。

交通安全のハタフヤーで児童生徒と触れ合い、民生委員等でお年寄りと触れ合い、紙芝居で地域社会と触れ合い、地域社会の一員として微力ながら貢献できたのかと自問しつつ、今後、地域社会から必要とされ、また充実した人生が送れるよう引き続き取り組んでまいります。

受賞を嘉手納町長へ報告

令和7年度電友会ボランティア活動賞を受賞した知花賢宜さんが、地元の嘉手納町役場へ當山宏町長を訪れ、受賞報告を致しました。沖縄電友会から仲本会長、小波津事務局長が同行しました。

仲本会長から、電友会の組織概要や受賞理由等を説明し、町の歴史など懇談しました。



ボランティア活動功労賞 「会員第一を心がけ活動」



崎浜 秀恒

○電友会活動のキッカケ

沖縄電友会活動のキッカケは、平成十二年五月、電友会入会の要請があり、事務局に入会することとなりました。当時はPCも無く、会員名簿が手書きの管理で会報発送の宛名書きも手書で作業を行っていましたので、ワープロ購入を提案し、会員名簿と宛名簿を作成、以後、十六年にわたり沖縄電友会事務局のボランティアを行うこととなりました。

○主な活動状況

平成十六年六月理事就任、電友会会員名簿をエクセルで作成、会報発送封筒のプリンター打ち出しを実施、事務を合理化しました。

また、会員の年齢別管理表も作成、新規会員入会勸奨等に役立てO A化に努めました。

平成二十八年九月事務局長就任、平成二十九年には電話運用部104担当者OB会、那覇料金部門担当者OB会、共通部門担当者OB会をOBサロンで開催しました。現役時代に共に仕事をした仲間達との再会で懐かしさと嬉しさで話も盛り上がり、あつという間の楽しい時間を過ごすことができました。特に電話運用部104担当者O

B会は約五十名の参加者で平均年齢が八十歳近くとなり、何十年振りかの再会に、「皆と会えると思わなかった」と手を取り合いながら涙を流して抱き合う姿に私自身OB会をやつてよかつたと感動しました。

令和二年新型コロナウイルス緊急事態発生、コロナ禍のサークル等活動自粛がありましたが電友会活動離れ対策として、オンラインを活用し理事会・サークル活動等を取り組みました。実施にあたっては、web回線

の接続・使い方を何度も事務局に来て貰ったり、自宅に訪問して設定するなど一苦労がありました。現在でも空手サークル・フットサークル・中国語サークルがリモートで活動や懇親飲み会等の活動を継続実施しています。

令和三年に、リモートで宮古・八重山地区会員の皆様を初めて総会・生年祝い祝賀会に参加させる事ができた時は離島会員の皆様から喜びの声がありました。

から駆け付け四十五名が集い、久々に昔話に花が咲きました。

〇感想

この度はボランティア活動功労賞表彰の受賞、身に余る光栄に心からお礼申し上げます。

受賞は、常に私をご支援ご協力してくれた、諸先輩・同僚等会員皆様のおかげです。

事務局在任中は、多くの諸先輩や同僚が励まして事務所に訪ねて来てくれました。

会員の皆様が喜ぶことを第一に考える活動が、喜びであり、やり甲斐・生きがいでした。

余談になりますが、ある日女房に「貴方、これまでで一番、今の仕事がとても生き生きして楽しそう」と言われました。好きなことを楽しんでできる活動の場を与えてくれた、諸先輩や同僚達に心から感謝しかありません。

これからも諸先輩等の皆様と絆を保ち、地域における交流も大事に、心身ともに健康な人生を過ごしていきたいと考えております。

有り難うございました。



運用 OB 会



料金 OB 会



営業 OB 会

那覇営業OB会

同年、那覇・宮古・八重山地区がリモート参加でeスポーツ大会を実施、電友会の活動がフレイル防止と健康寿命が伸びる取り組みというこ

とで、テレビをはじめ沖縄のマスコミで大きく報道されました。

また、事務局長退任後の令和六年十月に那覇局営業OB会を企画し開催しました。遠くは名護市

『座波字誌』の発刊

金城 勇

(平成十八年六月退職)

糸満市座波区において、以前から「伝統ある座波の歴史・行事等について調査・研究し、文献にまとめて後世に残すべきだ」という意見が何度も出されたが、なかなか取り組んでいくまでには至らなかった。そのようなか、二〇〇八年ごろ有志数名で「準備委員会」を立ち上げ、大まかな字誌の構想を練るとともに、運営メンバーを選定し、二〇〇九年度の自治会定期総会において、「字誌発刊委員会」(メンバー三十名)を立ち上げることであった。

私も準備段階から加わり取り組んできたが、専門家がおらず殆どのメンバーが初めての取り組みということもあり、試行錯誤・紆余曲折の連続であった。また、仕事の都合や体調不良等による離脱や、残念ながら亡くなった方も多数おり、本当に発刊できるか自信を失いかねない時期もあったが、残ったメン

バー(最終的には十一名)で何が何でも発刊しようと誓い、足掛け十六年もかかったが、何とか二〇二五年三月に発刊することができた。

「座波」の地名の由来については、琉球王国の正史「球陽」や歴史専門家への聞き取りなどを行ったが判明しない中、首里

「座波字誌」16年かけ完成

集落成り立ちから検証

【糸満】糸満市座波の成り立ちや歴史、行事の歴史をまとめた「座波字誌」がこのほど完成した。2009年に発刊委員会が発足して初めての取り組みで、歴史や考古学の専門家もいなかったため、編さんに16年を要した。委員会事務局次長で元市長の金城勇さん(75)は「当初30人のメンバーでスタートしたが、他界した人も多い。全ての区民にささげたい」と語った。

糸満



編さんに16年をかけた「座波字誌」を手にする発刊委員会事務局次長金城勇さん(8月、糸満市座波)

元区長金城さん「全区民にささげたい」



座波字誌の発刊委員会のメンバー。後列左端が金城勇さん(2024年3月撮影)

【糸満】糸満市座波の歴史を一冊にまとめた「座波字誌」がこのほど完成した。2009年から足かけ16年という長い歳月をかけた発刊にこぎつけた字誌を手に、関係者は喜びと安堵の声を上げた。

発刊委「親子で語り合って」

字誌は全11章、371ページからなる。座波の年中行事や昔話、字民が体験した沖縄戦と戦後復興の歩みなどを、写真や資料を交えて丁寧に紹介する。戦争体験者や軍作業体験者、移民体験者などを招いた座談会を実施し、ドローンを使って現在の座波の航空写真も撮影した。

発刊のきっかけは、字民からの「伝統ある座波の歴史について調査・研究し、文献にまとめて後世に残すべきだ」という声だった。要望に応えようと08年ごろに有志数人による準備委員会が立ち上がり、09年に発刊委員会が発足した。発足当時の委員会のメンバーは30人。その後、

金城町の「座波家」を尋ね琉球王府の系図座に記録された「座波家」の家系図をみせていただいたところ、「座波家」の元祖「座波子(ザハシー)」は南山の第二大王の子であることが判明した。「座波子」が誕生した時代が不明な中、「座波子」を先祖に持つ座波家の一世「嘉恒」が

一五二五年生まれであることから、「座波村(ザハムラ)」と呼ばれたのは一五二五年以前からだと推測できるが、正確な年代を特定することはかなわなかった。

また、「座波」の地名の由来についても解明できなかった事に悔やまれる。

足かけ16年「座波字誌」完成 糸満

【糸満】糸満市座波の歴史を一冊にまとめた「座波字誌」がこのほど完成した。2009年から足かけ16年という長い歳月をかけた発刊にこぎつけた字誌を手に、関係者は喜びと安堵の声を上げた。

発刊委「親子で語り合って」

字誌は全11章、371ページからなる。座波の年中行事や昔話、字民が体験した沖縄戦と戦後復興の歩みなどを、写真や資料を交えて丁寧に紹介する。戦争体験者や軍作業体験者、移民体験者などを招いた座談会を実施し、ドローンを使って現在の座波の航空写真も撮影した。



発刊のきっかけは、字民からの「伝統ある座波の歴史について調査・研究し、文献にまとめて後世に残すべきだ」という声だった。要望に応えようと08年ごろに有志数人による準備委員会が発足した。発足当時の委員会のメンバーは30人。その後、



元区長で委員会事務局次長の金城勇さん(75)が字誌を手渡している。左から2人目。字誌を手渡した発刊委員会事務局次長の金城勇さん(75)は「専門家もいない中で、手探りでやってきた。一時は完成しないかと思ったが、なんとか発刊にこぎつけた」と感無量の様子。

「座波は転入者も多く、伝統行事や歴史を知らない人も多いと思う。中高生でも読みやすい内容を心がけたので、親子で座波の今と過去を語り合うようなきっかけにもなれば」と話した。

字誌は本年度の自治会費納入に合わせて区民に無料で配布するほか、1冊税込み3000円で公民館で販売する。問い合わせは座波公民館、電話098(994)7214(月・水・金の午前10時～午後4時)。(編者すみれ)

座波字誌完成で

地域のことを知るきっかけに

〇〇生まれも育ちも座波で、区長を務めた経験もある。足かけ16年の制作期間を要した「座波字誌」の完成を、人一倍喜んでいる。

字誌は座波の歴史、伝統行事

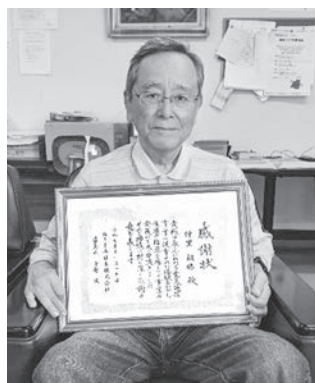
などを網羅したもので「改めて勉強になった」と話す。

移住者も多いことから「首段字ん」でいいと意識しない地域のことを知るきっかけになるのでは」と期待を込めた。(糸満)



大城良計さん(71)

NTT西日本沖縄支店退職者交流会開催



去った十一月十七日（月）午後一時からダブルツリーbyヒルトン那覇首里城にて、NTT西日本沖縄支店主催で「退職者の皆様との交流会」が開催されました。OB・OG一二七名が参加し、三線サークル十二名によ

る琉球古典音楽斉唱で幕開けとなり、古堅支店長、金城分会長の挨拶に続き、仲本沖縄電友会会長の乾杯の音頭で交流会がはじまりました。
交流会では、NTT西日本沖縄支店長から電気通信事業功労

者として、仲里朝勝さん（欠席…仲本会長が代理受領）、國吉克哉さん、地域ボランティア功労者として照屋恒さんが感謝状と記念品を贈呈されました。三名の皆様誠におめでとうございました。

現役の皆さんの力強いエイサーで一段と盛り上がり、最後は定番のカチャーシー、NTT労組退職者の会沖縄県支部金城会長の閉会挨拶で大盛況の中、中締めとなりました。

「電友会うない」 たより

1. フードバンク贈呈式

令和7年9月24日（水）午後、NTT・電友会うないメンバーが、NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄（豊見城市）を訪れ、食料品・紙オムツ等約500kgを寄贈しました。

物価高騰の中、貧困家庭から感謝されている旨お礼の言葉を頂き地域社会、福祉の向上に寄与しました。なお、贈呈式には電友会うないから、松田真佐子さん、川野顕子さん、金城明美さんが参加しました。ご賛同頂きました会員の皆様ありがとうございました。



2. タオル帽子づくり講習会開催

抗がん剤治療等により、髪の毛が抜け落ちる患者さまのため、NTTうないと連携し、タオル帽子を作成して毎年12月に、中頭病院へクリスマスプレゼントとして提供しています。

電友会うないでは、この取り組みを継続していくため、令和7年11月11日にOBサロンにてタオル帽子づくりの講習会を開催し、6名が参加し20個仕上げました。



3. クリスマスプレゼントとしてタオル帽子提供

NTT・電友会うないは、12月22日（月）に中頭病院を訪れ、手作りしたタオル帽子を入院患者さまへクリスマスプレゼントとして合計216枚を贈呈しました。この取り組みは2018年から継続しており、今回電友会うないは事前に作り方講習会を開催した結果、計40枚を作成し贈呈出来ました。

抗がん剤治療中の患者さまから、「手作り帽子に感動しました、とても使いやすいそうなので2つ頂きます、どうもありがとうございます。ボランティアスタッフの写真をみて胸が熱くなりました、支えて下さり感謝します」とのメッセージが寄せられました。

今年も、うないメンバーを中心に取組んで参りますので、ご家庭で未使用の色柄付タオルがありましたら電友会事務局へ提供いただき、活動の輪を広げていきたいと思っておりますので会員皆様のご理解・協力方宜しくをお願いします。



2025年秋季囲碁大会開催

令和7年9月27日（土）13時からNTT那覇ビルOBサロンにて、囲碁大会を開催しました。7名が参加しトーナメント方式で熱戦を展開した結果、新川善正さん（四段）が見事優勝、嘉陽田朝正さん（二段）が惜しくも二位、前回優勝の普久原朝昭さん（四段）が三位となりました。次回は、年明けに新春囲碁大会を開催していきます。



【2026年新春囲碁大会のお知らせ】

令和8年2月14日（土）13:00～OBサロンにて

※多数の皆様の参加お待ちしております。希望者は事務局まで連絡下さい。



ボウリング大会のお知らせ （ストレス・運動不足解消）

今年も恒例のボウリング大会を開催いたしますので
会員の皆様、奮ってご参加ください。



- ・と き 令和8年2月16日（月） 12時スタート
- ・ところ サラダボウル（那覇市辻）
- ・参加費 1,500円（2ゲーム・貸靴代含み）※賞品あり
- ・募集数 30名（10レーン）

※参加希望者は、事務局（831-2086：小波津）まで、2月9日（月）までに連絡をお願いします。

がんじゅう広場

今年の 年男・年女



山城 清隆

(平成二十九年三月退職)



沖縄電友会の皆さん大変ご無沙汰しております。

私自身、今年「古希」を迎えるという意識は全くなく、いつまでも五十代のままの気持ちです。幸い白髪も少なく頭髪も健在で、見た目は若さを維持しております。

唯一、年を感じるののは、ゴルフのドライバーの平均飛距離が若い時の「二五〇ヤード」から「二一五ヤード」に落ちたことです。年のせいにはしたくなく、度々道具を買い替えています。

結果は変わりません。

また、ゴルフについては永遠の師匠である「金城勇さん」とこの二年ぐらいで「四〇五回」ラウンドしましたが、ほとんど負けています。未だに勇兄貴師匠には勝てません。(悔しい!) 師匠が年を取るのを待つしかありません?(笑)

それから、一昨年びっくりした(嬉しい)ことがありまして、妻の姪子と「桃原次男さん」の息子さんが結婚し、次男さんと親戚になったことです。(次男さん今後ともよろしく!)

近況としては、七十歳で「NTテレコン」を退職してから、現在友人が運営する「児童デイサービス」の事業所に勤め、児童の送迎・指導補助・施設設備管理等に従事しています。慣れない仕事で大変ですが、あと三年ぐらいは頑張ろうと思っています。

そして、趣味のゴルフを楽しむことと孫六名の今後の成長を楽しみに日々過ごしていきたいと考えています。

最後に皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

チャーガンジュー

友利 勉

(平成三十年三月退職)



皆さん、お元気ですか。

電友会から届いた封書で、自分もトウシビー「数え七十三才」になるんだと気づかされました。

日本復帰の翌年(昭和四十八年)、日本電信電話公社に入社し分割民営化でNTT西日本(株)、NTT子会社での勤務を経て平成三十年三月(六十三才)の退職まで四十五年間、NTTには大変お世話になりました。

振り返れば、沖縄宮古電報電話局で四月一日に見習い社員採用「有線通信職三級」四二、八〇〇円の辞令を受け、四月三日から熊本電気通信学園で「アサヒのア、イロハのイ…」等、印刷通信班(電報)の四ヶ月訓練を修了、宮古局に帰って八月

一日に社員採用辞令を受けて現場での電報業務が始まりました。その後、昭和五十七年三月に電話運用課(自動運用係)へ職転して昭和六十三年に沖縄支社・営業課に転勤、沖縄本島での生活が始まりました。その間、アナログからデジタル化への進展、民営化で独占から競争へと環境が変わり、新規参入事業者(他社)とのマイライン営業など競争激化に伴い仕事内容も変化しましたが多くの素晴らしい先輩や同僚に恵まれて仕事を全うすることが出来ました。

五十九歳のとき、家族はもとより地域の方々やNTTの仲間、多くの皆様のご支援、ご協力で北谷町議会議員に当選し現在三期目、地方自治の本旨である住民福祉の増進と町の発展のため微力ながら尽力しております。

日々の生活は、ボランティア活動で毎朝、子供たちの見守り活動時に(登校時の交通安全指導)子供たちの「おはようございます」の挨拶で元気をもらっています。また、毎週金曜日には、地域の仲間と共に観光地として全国的に有名になっている美浜

アメリカンビレッジ内、海岸植栽の雑草取りや花植え作業など地域の美化活動をしており作業後、海岸沿いのカフェで仲間との珈琲タイムを談笑しながら楽しんでいきます。

体力維持、健康づくりのため、時々海岸沿いのウォーキングや町民農園(五坪)での野菜作り、美浜スポーツクラブでのボーリング、地域の仲間とのゴルフや宮古出身者との交流ゴルフ、そしてNTT-OB仲間との懇親会などで日々、楽しく過ごしています。

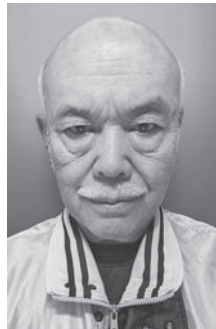
また、週二日は、三歳の孫を保育所から迎えて、自宅と一緒に遊ぶのも楽しみの一つです。(エイサー大好きな男の子で、私の体力ではついていけない状態)

自宅隣りの美浜アメリカンビレッジやフィッシュリーナ地区には、個性的で魅力ある店舗やカフェが多く「デポアイランド・ボードウォーク」から眺める夕日は格別です。また、毎週土曜日の午後八時には打ち上げ花火もあり多くの観光客(来訪者)で賑わっています。夕日を眺め、花火を見ながら食事をしてゆつ

たりと過ごす癒しも良いと思います。美浜アメリカンビレッジのランドマークだった観覧車が撤去され寂しい思いもありますが跡地には、十八階建てのホテルが令和八年四月にオープン予定です。是非、美浜アメリカンビレッジへお立ち寄りください。お待ちしております。



上 原 茂 利
(令和二年三月退職)



現在、琉通工で交通誘導員としており、日々中頭地区の電柱の傍らで紅白の旗を振っています。

電電公社・NTT・アクト社でずっとデスクワークだったのが街中の仕事はちよつとしたお出掛け気分もあり、それなりに楽しんでいます。

とはいえ気がつけば毎年々々

体力は低下の一方、健康であることの大切さを今更のように感じてます。

今年は年男なので「無事は名馬」を目指して一日一日を丁寧

に過ごしてみようと考えてま

日々・一喜一憂



平 田 真 智 子
(令和二年三月退職)



今朝も通勤通学の姿をモノレールの駅に見ながらペランダの花壇に水やりをする。

思えばオイルショックの真只中(昭和四十八年)日本電信電話公社に入社して、四十七年間の会社生活のうち、三〇年を営業の仕事に携った。

私の営業の原点はコザ営業所

である。地理や人的ゆかりもない土地での販売はすべてが驚きの連続であった。年始めに自分でルートを決め「飛び込み営業」し住宅地で名刺を配り挨拶回りをすると(平田のお嬢さんが電話機の営業とは)と同情された。池武当の平田一族は大地主だとは日知り納得。なかなか上がらない営業成績に、当時宜野湾に住んでいた私は、帰宅途中に普天間宮に神頼みの参拝も度々。営業窓口で取り継がれたお客様宅に行くと、暴力団抗争真最中の組事務所へ一人で案内され、平静を装い契約したのも二ヶ所程。(反社会勢力への販売対応がまだ確立してなかった時代)あれから勢理客の通機支店への移動。

都市部の客層の違いに赴任初日、ここでやっていけるのかと感じた不安は今でも鮮明に覚えている。

組織も変わり、課名もカタカナ文字への変遷、待時通話からアナログそしてデジタル・光へ。時代は変わっても社会に直に関わる営業はやりがいのある仕事でした。NTTという大きな会

社に入社し、退職後も見守ってくれる組織があることに感謝。

年を重ねた者同士の女子会で、慣れないタブレット注文や配膳ロボットが働いている姿にある種の羨ましさを感じ、都度バージョンアップするスマホ操作、各種申請の電子化に「高齢者には住みにくい」とお互いを労りながら、不得意だった料理をスマホ検索で文明の利器の恩恵を受け、一方では良い時代になったと一喜一憂。脳内活性化をめざし、ご近所とのガーデニングや井戸端会議、料理のおすそわけを楽しんでいます。

これからも多くの人との繋がりを大いに楽しみます！



喜久里 艶 子
(令和二年三月退職)

まだまだ若いと思っていたのに今年トウシビー(73歳)を迎え、あらためて自分の年齢を感じました。

新型コロナウイルス感染が蔓延の2020年に退職をしまし

た、在職中は仕事に追われる日々で退職したらこれまで出来なかったことをノンビリやれたらいいなあーと思っていたらコロナで外出もままならない日々、家こもりで一足早い終活を始めました。

在職中を振り返ると沖縄国際海洋博(昭和50年)を控えた昭和49年に名護電報電話局の番号案内に採用となり、勤務地も名護からコザ、那覇の楚辺ビルでの退職と退職に至るまでは多くの人たちと接することが出来ました、おかげで人という財産を手に入れ、恵まれた人生でした、(過去形にするのはちょっと早いですが)

今後、多くのみなさんと新たな繋がりが作りを楽しんで参りたいと思います。

いつまでも明るく元気である事を目標にまだまだ頑張る所存です。これからも宜しくお願致します。

最後になりましたが、電友会の益々のご発展と、会員の皆様のご健康を祈願しております。

NTTだより

二〇二五年度 退職者の皆さまとの交流会を開催！

沖縄支店では、十一月十七日(月)、退職者の皆さまをお迎えし、これまでの感謝の気持ちを伝えようと、親交をさらに深めるための交流会を開催しました。今年度は一二十八名もの退職者の皆さまにご参加いただき、盛況な会となりました。

交流会は、沖縄電電同友会(以下、電友会)および退職者の会のメンバーで構成される三線サークルによる演奏で華やかに幕を開けました。「かぎやで風節」「御縁節(ぐいんぶし)」「揚作田節(あぎちくてんぶし)」の三曲が披露され、会場は沖縄らしい温かな雰囲気につつまれました。

開会の挨拶では、古堅支店長が『「これまでも これからも 沖縄の皆さまとともに」というスローガンのもと、皆さまから受け継いできた宝をしっかり守り続け、ICTの活用やDXの



電友会・退職者の会の皆様(三線サークル)による幕開け

推進を通じて、安心・安全・便利で豊かな沖縄社会の実現に向けてさらに取り組みを前進させていきたいと考えています。今後とも皆さまからの力強いご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。」とあいさつしました。

続いて、沖縄分会の金城分会長による来賓挨拶、電友会 本会長の乾杯のご発声があり、退職者の皆さまは旧友との再会や現役社員との交流を楽しみながら、世代を超えた和やかな時間を過ごしました。



交流会に参加された退職者の皆さまと
シーサーポーズで記念撮影

終盤には、現役社員による余興として、ビジネスフロント沖縄支店の前田支店長が「肝（ちむ）がなき節」を熱唱。さらに、創立十一周年を迎えたMABUI太鼓のメンバーが「七月（しちがち）エイサー」「帰る場所」「唐船（とうしん）ドリー」に合わせて、沖縄の伝統的な演舞であるエイサーを披露しました。最後の「唐船ドリー」では、交流会に参加した皆さまもカチャーシーを踊り、会場が一体となって盛り上がりました。閉会にあたり、NTT労働組

合退職者の会 沖縄県支部協議会 金城会長よりご挨拶をいただき、交流会は笑顔と感謝に包まれながら幕を閉じました。

NTT西日本沖縄支店では、支店スローガン「これまでもこれから 沖縄の皆さまとともに」のもと、退職者の皆さまが築いてきた歴史やマインドを次世代へしっかりと引き継ぎ、今後も尽力してまいります。

沖縄県立図書館にてAI読書感想対話システム「ぴたりえチャット」および「ぴたりえクイズ」等の体験展示を開催しました！

沖縄支店は、十月二十七日（月）から十一月三日（月・祝）までの期間、沖縄県立図書館「おはなしの森」前の特設コーナーにて、AI読書感想対話システム「ぴたりえチャット」および「ぴたりえクイズ」の体験展示を開催しました。

本展示は、沖縄県教育委員会が策定した「沖縄県子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの読書習慣の育成を目的として、デジタル技術を活用



NTTコミュニケーション科学基礎研究所の
皆さんと記念撮影

した読書環境の充実に向けて実施されたものです。

十一月一日（土）のメディア公開日には、子どもたちが主体的に読書に向き合える新たな取り組みとして注目を集め、地元テレビ局や県外メディアからも取材いただき、本展示の様子が紹介されました。当日は一般来館者に加え、多くの社員も訪れ、会場は大いに賑わいました。

冒頭に、沖縄ビジネス営業部 沖縄振興推進部門の緒方さんより展示の概要説明が行われました。その後、子どもたちは約二〇〇冊の絵本の中から好きな本を選び、AIロボット「S

OTA」と対話しながら感想を語ったり、「好きな食べ物は何？」「サーターアングギー！」といった自由な質問を楽しんだり、絵本の内容に関するクイズに挑戦するなど、会場は子どもたちの笑顔で溢れていました。また、隣接するコーナーでは、絵本を読み返しながらオリジナルのクイズを考えるイベントも実施。完成したクイズは壁に掲示され、家族やお孫さんと一緒に楽しむ姿が見られました。

メディア公開の最後には、古堅支店長より「このたびはご来場いただき、誠にありがとうございました。また、ご協力いただいた図書館関係者や教育委員会の皆さまにも、心より感謝申し上げます。本イベントでは、ぴたりえシリーズの「ぴたりえチャット」と「ぴたりえクイズ」を活用し、子どもたちが本をより楽しく、もっと読みたくなるような体験を提供することをめざしました。読書を通じて理解力や読解力の向上にもつながればと思います。今後もこうしたサービスを通じて、地域における読書推進や教育の発展に貢献

してまいりたいと考えております。」とあいさつしました。

今回の展示では、NTTが発した最新の日本語大規模言語モデル「tsuzumi 2」を搭載。絵本や児童書に特化した独自コーパスを活用することで、子ども一人ひとりの興味や読書レベルに応じた絵本の推薦を実現しました。全国初となる「tsuzumi 2」搭載展示として、AIによる読書支援の新たな可能性を提示する機会となりました。

今後もNTT西日本 沖縄支店では、ICTを通じて地域の子どもたちの学びと成長を支援してまいります。



会場は大盛況でした！

古堅支店長がROK沖縄羅針盤（ラジオ番組）に出演！～沖縄支店長としての想いを語る～

十月十九日（日）、古堅支店長がラジオ沖縄（ROK）の「沖縄羅針盤」にゲスト出演しました。この番組は、沖縄の将来について各界のリーダーが語る人気番組です。番組では、NTT西日本沖縄支店が地域とどのように関わっているか、これまでの取り組みや今後の展望について紹介。古堅支店長は、地域への思いや未来への希望を温かく力強いメッセージとして届けました。番組の冒頭、沖縄で生まれ育ち、その後、県外で社会人としての経験を積む中で、地元沖縄を外から見つめる機会を得てきました。こうした経験を通じて、沖縄の魅力と課題を客観的に捉える自分なりの視点が自然と身についたと感じています。良いところはさらに伸ばし、改善すべき点にはしっかり向き合う——その思いを胸に、地元に貢献したいという強い意気込みを語りました。以下、番組内でお話しされた内容をご紹介します。



インタビューアの島田さんと古堅支店長

ます。なお、実際の放送内容については、番組HP（ROK沖縄羅針盤 <https://x.gd/sqomzn>）でも聴いていただけます。

〈沖縄羅針盤で古堅支店長がお話しされた内容（要旨）〉

■沖縄の通信インフラを支える使命

NTTは「電話の会社」というイメージが強いかもしれませんが、今では通信インフラを超えて、地域の課題解決に取り組む企業へと進化しています。

離島が多い沖縄ならではの課題にも対応。今回、南北大東島間に海底光ケーブルを敷設。これにより沖縄県内すべての自治



ラジオ番組で「沖縄の課題解決と展望」を語る古堅支店長

体がループ化され、災害時にも強く、安定した通信インフラが整いました。通信は「黒子」のような存在ですが、だからこそ、当たり前に使える、安心して暮らせる環境を守ることが何より大切です。

■NTTの先進技術で地域課題を解決する

地域の課題解決にも力を入れています。沖縄では、南城市や石垣市での自動運転バスの実証実験や、AIカメラを活用したアマチュアスポーツの配信など、自治体と連携した先進的な取り組みを展開しています。観光分野では、VR技術を活用したコンテンツ開発や、観光データのプラットフォーム化も進行中です。

さらに、NTTグループが推進する次世代情報通信基盤「IOWN (Innovative Optical and Wireless Network)」の導入により、より豊かな沖縄社会の実現が期待されています。

「IOWN」は、超高速・低遅延・省電力を実現する革新的な技術。東京～大阪間で800 GbpsのAPNサービスを提供しています。将来的には沖縄でも同等の環境が整う見込みです。沖縄に居ながらにして、世界とリアルタイムにつながる。そんな未来を通信で支えていきたいと思います。

■人と人がつながる「うちなーんちゅ企業」として

沖縄支店の社員の約八割は県出身者。そして残る二割は、沖縄が大好きな県外出身者で構成される「うちなーんちゅ企業」です。生まれ育った土地への誇りと、外から見た沖縄への愛情が交差する職場、それが、私たち沖縄支店であり、地域とともに育ち、地域とともに進む企業でありたいと考えています。

「これまでも これからも 沖

縄の皆さまとともに」は、沖縄支店のスローガンであり、私自身の信念でもあります。このスローガンを合言葉に、これからも社員一丸となって、地元沖縄の発展に貢献をしていきます。

「第三十一回 一万人のエイサー踊り隊」でMABUI太鼓が勇壮な演舞を披露！

十月十九日（日）、沖縄の一大イベントの一つでもある「二万人のエイサー踊り隊」が那覇市の国際通りで開催されました。本イベントには、県内各地から青年会や創作エイサー団



勇壮な演舞の模様

体などが勇壮なエイサーの舞いを披露。沖縄支店では、NTT沖縄グループの社員で構成した「MABUI太鼓」のメンバー二十二名が出場し、会場を大いに盛り上げました。

「MABUI太鼓」は、これまで社内外のイベントでエイサー演舞を披露するなど、地域の活性化や沖縄エリアの一体感醸成に大きく貢献しております。チーム名の「MABUI」とは、沖縄の方言で「魂」を意味し、MABUI太鼓による圧倒的な演舞に憧れて加入する転入者も多くいます。また、演舞イベントの際には、県外に異動したメンバーも沖縄に駆け付け、沖縄メンバーと一緒に演舞を披露するなど、MABUI太鼓のメンバーの固い結束力が感じられます。今回のイベント出演にあたっては、MABUI太鼓のメンバーは、多忙な業務の中でも本番に向けて、日夜練習に励んできました。

こうした中で迎えた本番では、「七月エイサー」「ダイナミック琉球」「唐船ドリー」の三曲を三ステージ（ホテルコレ



応援に駆け付けた社員の皆さんと記念撮影

クティブ前、てんぶす館前、にぎわい広場前）で披露しました。当日は、多くの社員が応援に訪れ、また、沖縄県民の皆さまや国内外の観光客などが沿道を埋め尽くし、MABUI太鼓のメンバーは、チーム名のとおり、魂の込められた勇壮な演舞で観客を魅了しました。

沖縄支店では、これからも、NTTグループが一丸となって、地域の活性化に取り組んでいきます。

「第十九回フードドライブ活動」を実施！食料品などNPO法人へ寄贈！

沖縄支店では、八月八日（金）九月十六日（火）の期間、地域社会への貢献と食品ロス削減の一環として、「第十九回フードドライブ活動」を実施いたしました。



たくさんの提供品をいただきました！

今回で十九回となるフードドライブ活動は、SDGsに積極的に取り組む「うないグループ」が中心となり活動。今回も多く、の社員や退職者の皆さまから温かいご支援をいただき、食品や日用品など多数の物資が寄せら

れ、総計約五二〇kgのご提供の品々が集まりました。ご協力いただきました提供品は、九月二十四日（水）「NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄」様へ贈呈し、団体を通じて支援を必要とされている方々へと届けられます。

贈呈式では、うないグループの屋比久リーダーが贈呈の挨拶を行い、「今回で十九回となり、社員やその家族だけでなく、退職者の皆さまにもご協力いただくようになり、年々、支援の輪が広がっています。活動をとおりして地域の皆様へお役に立てることを大変嬉しく思っております。このような活動の場を与えてくださり、うないを代表しまして感謝申し上げます」とあいさつ。

また、同団体の奥平代表からは「御社には毎年継続して活動、ご支援いただき、こうして皆さんの思いを託していただくことで、私たちも今後も頑張っていこうという励みになります。今後ともご支援いただくと幸いです。ありがとうございます」と御礼の言葉をいただきました。

できました。

贈呈式後は、うないグループ、電電同友会と広報グループの皆さんで、提供品を賞味期限ごとの棚への収納作業のお手伝いをしました。皆さん手際よく行い、奥平代表より「振り分け作業も大変なので、ここまで協力していただき、本当にありがとうございます」と協力の感謝の言葉を述べられていました。

うないでは、フードドライブ活動をはじめ、タオル帽子活動、エコキャップ活動などの社会貢献活動を社員やご家族、退職者



古堅支店長と廣瀬事業推進室長とBS城間ビルの皆さん。たくさんの提供品ありがとうございます！

の皆さまのご協力をいただきながら行っており、今後も継続して実施し、地域に根ざした活動を継続してまいります。

離島の通信インフラ強化へ南北大東間を結ぶ海底光ケーブル敷設に向け、「きずな」が着港！

八月八日（金）、那覇埠頭構内において、南大東島と北大東島を結ぶ海底光ケーブルの敷設工事の安全祈願祭を開催しました。沖縄支店では、沖縄県と大東地区情報通信基盤を充実させるため、大容量高速伝送路「海底光ケーブル」を敷設する事業を進めてきました。今回、南北大東島間を海底光ケーブルで結ぶことにより、沖縄県内全自治体のループ化が完了します。

安全祈願祭では、古堅支店長をはじめ、南北大東両村の副村長や政府関係者など、多くの関係者が出席されました。

祭儀は波上宮の神職様により厳粛に進められ、海上作業の無事を全員で願いました。玉串奉奠の際には、この事業の発注者



那覇埠頭に着港した
海底光ケーブル敷設船「きずな」

である沖縄県をはじめ南北大東
両村の副村長、元請となるNT
T西日本から古堅沖縄支店長、
そして敷設作業を担当するNT
Tワールドエンジニアリングマ
リンの渡邊社長や関係各社の代
表者が順に奉納を行い、出席者
全員で無事故、無災害、工事の
安全を祈願しました。祈願祭終
了後は敷設船「きずな」の船内
や搭載されている設備などを見
学しました。祈願祭には、TV
二局、新聞二社、ラジオ局が取
材に訪れました。古堅沖縄支店
長は、「離島の多い沖縄におい
ては、海底ケーブルが一本切れ
ると利用できるサービスが途絶
えることが起こりうる。今回の

ループ化により、離島の皆さま
にも高速かつ安定した通信イン
フラの提供を行ってまいりた
い」とメディア各社へ伝えまし
た。

八月九日（土）は、NTT関
係者のご家族や地域の福祉施設
の子どもたちなど、約九〇名を
招待して見学会を開催しまし
た。船内の最上階である操舵室
で外の景色や船内の様子を見
たり、また、船に搭載されている
水深二、五〇〇メートルの海底
でケーブルを埋め込む作業が行
えるロボットの説明では、「製
作費はいくらぐらいするの？
いくつのパーツでできている
の？」などの質問が飛ぶなど、
とても興味を示していました。
これまで見ることのなかった敷
設船「きずな」を見学して「き
ずなもロボットも大きくてカッ
コいい。楽しかった。船長室に
コンピュータや地図が多くて
びっくりした。いろいろな役割
を果たしていてすごい。」など
の感想をいただきました。見学
会にはNHKの取材が入り、二
日間で多くのメディアに取り上
げられ、たくさんの方に海底光

ケーブルの敷設事業を知ってい
ただき、社外プレゼンスの向上
やマスコミとの関係強化にもつ
ながりました。



波上宮の神職様により厳粛に進められる安全祈願祭

ケーブル敷設船「きずな」は、
八月十日（日）に南大東島に向
け出航し、九月十五日（月）には、
ケーブルの保護および構造物の
耐久性を高めるためのU字鉄筋
の設置も南北大東島間の海底区
間にて実施され、作業が終了し
ました。運用開始は、二〇二六
年四月を予定しています。沖縄
支店では、高度かつ高品質な通
信サービスの環境の整備を行う
ことで、観光、防災、地域振興、

教育、健康・福祉などのさまざ
まな分野でDXを推進したまち
づくりに貢献してまいります。

「防災の日」に琉球朝日放 送番組「CATCHY」に生 出演！災害用伝言ダイヤ ル（171）等をPR

九月一日（月）に、NTT
フィールドテクノ 沖縄設備部
フィールドサービスセンタ（南
風原）から備瀬 日珠利（びせ
ひみり）さんと福原 玖怜亜（ふ
くはら くれあ）さんが琉球朝
日放送（QAB）の情報・報道
番組『CATCHY 第一部』
に生出演しました。「防災の日」
にあたり、県民の皆さまに災害
時の安否手段として、災害用伝
言ダイヤル（171）等を紹介
しました。

『CATCHY』は、沖縄県
内の暮らしに役立つ情報を発信
する夕方放送番組で、毎週
月・金曜日に放送されていま
す。出演当日は、本番二時間前
に琉球朝日放送本社スタジオ
を訪問し、月曜MCの川満アン
リさんと知念だしんいちろう

さんとともにリハーサルを実施。川満さんからは「実は先程、171にかけてみました。すごく便利です！」とコメントもいただき、和やかな雰囲気の中で読み合わせが行われました。



本番直前、MCのお二人から
温かいお声がけをいただきました

本番では、MCのお二人が、「九月一日、月曜日。毎日頑張るあなたに届けるCATCHY〜!」と笑顔で番組をスタート。いくつかのコーナーを経て、備瀬さんと福原さんがゲストとして登場し、災害時の安否確認手段として、災害用伝言ダイヤル（171）等の活用方法を紹介しました。

番組の最後には、川満さんより「備えはいざという時にきつと力になります。ぜひご家族や

知人と、防災の備えについて考えてみてはいかがでしょうか。」とのメッセージがあり、無事に生放送を終えることができました。備瀬さん、福原さん、ご出演お疲れ様でした！
今後、沖縄支店では、災害用伝言ダイヤル（171）等の周知活動を通じて、県民の皆さまの防災意識向上に貢献してまいります。



番組終了後、スタジオにてMCとの
記念撮影が行われました

の二日間にわたり、沖縄県総合運動公園庭球場で「第三十七回NTT西日本全沖縄高等学校ソフトテニス大会」を開催しました。一九八九年に第一回が開催されて以来、長い歴史を持つ大会で、今年で三十七回目を迎えました。

本大会は、高校総体後に新チームが始動するタイミングで開催される、県内初の大規模大会であり、十月に予定されている新人大会の前哨戦として位置づけられています。勝敗によって新人大会のシード権が決定する重要な大会でもあり、県総合体育大会・県新人大会と並ぶビッグ3の大会の一つとして定着しています。

今年の団体戦には、全十五



選手宣誓の様子

校（男子十四チーム、女子十五チーム）、一八六名が参加。個人戦には男子四十三ペア、女子四十八ペア、一八二名が出場しました。

開会式では、昨年度の団体戦優勝校である名護高校（男子）、糸満高校（女子）から優勝旗が、個人戦優勝校の八重山高校（男子）、糸満高校（女子）から優勝杯がそれぞれ返還されました。その後、古堅支店長より挨拶され、大会運営に尽力いただいた沖縄県ソフトテニス連盟、沖縄県高体連ソフトテニス専門部の皆さまへ感謝の言葉を述べ



NTT西日本杯全沖縄高等学校ソフトテニス大会を開催

られました。

また、選手たちに向けて「この大会を絶好の機会と捉え、日頃の練習の成果を存分に発揮し、それぞれの目標に向かって全力のプレーを披露していただきたい」と激励の言葉が送られました。続いて、選手宣誓が行われ、大会がスタートしました。

試合前には、各校が円陣を組み、勝利に向けた大きな掛け声で士気を高める姿が見られました。当日、ご視察された沖縄県ソフトテニス連盟の事務長より、「毎年大会を開催いただき、県内高校生のソフトテニス競技の普及・発展に寄与いただきありがとうございます」と支店長へ感謝の言葉を述べられました。

さらに、「沖縄という場所柄、県内高校生が世界の舞台で活躍するNTT西日本のソフトテニス部の皆さまのようなトップアスリートから直接指導を受ける機会は限られており、ぜひふれあいソフトテニス教室の開催もお願いしたい。」とご要望もいただきました。

今年度の大会では、初日に行

われた団体戦で男子は名護高校A、女子は糸満高校Aがそれぞれ優勝を果たしました。続く翌日の個人戦では、男子は団体戦に続いて名護高校が、女子は八重山高校が優勝を飾りました。

沖縄支店では、今後も地域社会の活性化およびアマチュアスポーツの振興に積極的に取り組んでまいります。

二〇二五年 点字電話帳（沖縄県版）を沖縄県視覚障害者福祉協会へ贈呈しました

沖縄支店では、七月三十一日（木）に社会貢献活動の一環として、目の不自由な方の電話利用におけるサービス向上を目的に、点字電話帳（沖縄県版）四八三部を沖縄県視覚障害者福祉協会へ贈呈しました。

贈呈式では、冒頭に古堅支店長より、点字電話帳の発行にご尽力いただいた関係者へ感謝の言葉を述べられました。続いて、「沖縄県版の点字電話帳は、一九八二年に初版を発行して以来、概ね三年ごとに発行しており、今回で十三回目となります。

日頃の暮らしに少しでもお役に立てることを願い、贈呈できることを心より嬉しく思います。今後とも地域社会に貢献できる会社であり続けるよう、全社をあげて取り組んでまいります。」とあいさつされました。

贈呈後には、沖縄県視覚障害者福祉協会の知花会長より、「沖縄県版（第十三版）が発行され、大変喜ばしく思います。初版の発行から四十年以上が経過していますが、私はその初版が発行された年に協会へ就職し、最初の仕事がこの電話帳の製作でした。当時は機械もすべて手動式で、原版の製作は大変な作業でした。こうしてNTT西日本様が社会福祉事業の一環として点字電話帳を継続して贈呈いただけることに、心より感謝申し上げます。」とお礼の言葉をいただきました。

式典後には、記念撮影を行うとともに、協会職員による点字電話帳の触読実演も実施。点字のみで構成された白いページの仕組みに、取材に訪れたマスコミ各社からも多くの質問が寄せられるなど、高い関心が寄せら

れました。

今後も沖縄支店では、「点字電話帳」をはじめ、地域社会に根ざしたさまざまな社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。



式典の様子



贈呈式後の記念撮影

浦添三代王統

慶田 永孝

(平成十三年三月退職)



琉球王国が成立する以前は各地の按司と呼ばれる首長がグスクを築き勢力を競いその後北山・中山・南山の三つの王国が並び立つ「三山時代」へと移行した。三山時代には、琉球は国際貿易国家として発展を始めている。沖縄本島中部を二五〇年にわたり本島中部一帯を支配下に収めていた舜天王統・英祖王統・察渡王統(三代王統)である。今回は英祖王統について少し触れてみたい。

以下「英祖王、大成王、惠慈(エージ)王、玉城王、西威(イリー)王」と五代続いた。

英祖王から英慈王までの三代は各地に小さな戦乱はあったものの王統は維持していた。しかし、四代目の玉城王が即位したあたりから王統内での派閥抗争が起こり、一二二二年から南山・中山・北山に分かれ、それぞれが独立した政治を行うことになった。

三山分立の最大の原因は、中国などとの海外貿易の利権争いであつたと言われている。

政治家や役人たちとの結託で利益や大きな権利を得ていたことは極めて言語道断であると言わざるを得ない。

思想信条を共にする同じ派閥でさえボタンの一つ掛け違いで大きな山が崩れることもありうると言われる。

沖縄の歴史に名を刻む英祖王(浦添)は中山の礎を築いた人物で琉球の英雄であつた。

以下については英祖王と関連することを記しておきたい。

一九七五年に開通した伊祖トンネル(通称メガネトンネル)は浦添市伊祖の国道三三〇号にある。

このトンネルの上を通る県道一五三号線(浦添市牧港と那覇市首里平良町を結ぶ一般県道)と立体交差する計画をしていた。

ところが建設予定地に必要な建設機械等を準備し、作業に取り掛かっていたが持ち込んだ機械などが作業中に幾度となくエンジントラブルや関連するシステム等が正常に機能しない状態であつた。更には関係者の事故等も重なり工事を進めることが出来ず作業は一旦中断し背景を明らかにするため現場調査をしたところ史跡があることを確認された。分かったことは伊祖の高御墓(たかうはか)つまり、英祖王の父「恵祖世之主(エソ・ユノヌシ)」の墓であることが明らかにになった。

そのことから前述した一五三号線との立体交差する計画は断念し、アンダーパス(地下道)にすることで現在のメガネトン

ネルが建設された。

歴史的背景を鑑みれば歴史を重んじると同時に社会や身の回りに起こりうる事柄には歴史的事実が如何に大事であるかを考えさせられた。

高校野球雑感

真喜志 彰

(平成十三年三月退職)

野球は昔から好きである。小学生の時は野球少年で、小学校対抗試合に何度か出たことがあり、楽しかった思い出の一つとなっている。

そして今でも大谷翔平のMLBやプロ野球を良く見ている。しかし、何とんでも甲子園の春の選抜、夏の選権の高校野球ほど県民一丸となって口角泡を飛ばして熱く応援する面白い野球はない。

昨年夏の第一〇七回全国高校野球選手権大会は、県勢では興南高校に続き十五年振りに沖縄尚学が優勝して幕を閉じ、深紅の大優勝旗が再び海を渡った。

決勝戦の日大三高との試合は今でも鮮明に記憶している。最終回の相手攻撃の九回裏、ワンアウト一塁、二塁でまさに手に汗握る一打逆転の危機的状況の中だった。センター前に抜ける

かと思われた強い打球を遊撃手がうまく処理し、6-4-3のダブルプレーであつたという間に大歓声の中試合終了となり、沖尚が三対一で優勝したのである。その瞬間、甲子園中が、沖

縄中が沖尚の優勝に拍手喝采し、県民は皆バンザイして熱い感動を味わったのであつた。

思い起こせば、甲子園での優勝への長い道のりは、沖縄県の高校野球の歴史の中で本土に追いつき、追い越せを合言葉に監督、選手、県高校野球連盟のたゆまぬ努力の結果であつた。

沖縄代表が甲子園に初出場したのはまだ復帰前の一九五八年夏の第四〇回の記念大会である。この時は残念ながら初戦で敗退した。

その時の試合の様子は当時小学五年生であつたが、テレビ中

継のない時代であり、自宅の親子ラジオに囁り付いてドキドキしながら聞いて、必死になって応援していたのを懐かしく思い出す。

夏の大会の初勝利は、これも首里高校が一九六三年第四十五回大会で日大山形に勝利し、初の一勝をあげた。この時もまだマイクロ波回線が整備されていなかったため、やはり親子ラジオで勝利を聞いて大喜びした。

そしてついに首里高校初勝利から五年後の一九六八年夏の第五〇回大会で、沖縄中を興奮のつばに巻き込んだ「興南旋風」が起こつた。

何と興南高校が予想に反して勝ち進み、四勝してベスト4まで進出したのである。

見通し外マイクロ波回線は、既に東京オリンピックの年の一九六四年に開通していた。それで「興南旋風」の全ての試合を白黒放送のTVの映像で見、興奮しながら観戦したこと

を良く覚えている。
また見通し内マイクロ波回

線が開通したのは復帰の年の一九七二年の五月からであり、この年の夏の甲子園はカラーテレビで観戦できるようになった。カラー映像の素晴らしさも相まって、ますます高校野球を見る楽しみが倍増していった。本県の高校野球の躍進を考え

た時、素晴らしい指導者の一人として、高校野球に情熱を懸けた裁弘義監督を挙げるべきである。豊見城高校を率いた裁監督は

一九七五年春の第四十七回選抜に初登場すると、赤嶺投手を擁していきなり選抜初のベスト8進出を果たした。

ベスト4をかけた東海大相模との試合で、九回裏2アウトまで一対〇で勝っていたが、相手の連打が続き、惜しくも一対二で逆転サヨナラ負けを喫してしまった。連打した一人が元プロ野球巨人軍の原辰徳である。この時の無念さは、今でも脳裡に

苦い記憶として焼き付いている。
裁監督は、沖縄水産高校に赴

任してから熱血指導は目覚ましく、一九八八年夏に興南以来のベスト4に進出すると、一九九〇年夏と翌年夏には二年連続の決勝進出を果たした。しかし悲願の全国制覇は惜しくもならなかったが、二回の準優勝は歴史に残る堂々たる戦いぶりで、県民に優勝は遠くないと、大きな夢と希望を抱かせたのであつた。

裁監督は間違いなく沖縄県の高校野球の水準を全国レベルに引き上げた一番の功労者であり、まさに名将といえるだろう。残念ながら二〇〇七年に病気で亡くなられた。裁監督の采配の下で、一度は甲子園優勝のシー

ンを見たかった。
さて、県民が熱望した甲子園初優勝は、沖縄水産の準優勝から八年後の一九九九年のこと

だった。
春の第七十一回選抜大会で沖縄尚学が左腕の比嘉公也投手を擁して次々と強豪校を破り、見事に春夏を通じて初優勝して紫紺の大優勝旗が初めて海を渡つ



優勝した瞬間喜ぶ沖尚ナイン

たのである。

決勝戦の時は県民の野球熱は最高潮に達し、タクシー、バスに乗る人は無く道路から人も車も消えて、スーパ―は開店休業の状態、職場でも仕事は手につかず一時休憩となった。そして県民はみなテレビにくぎ付けの状態となつて声をからして応援し、優勝の瞬間はみな熱い、暑い涙を流してその感動を味わった。

それから九年後の二〇〇八年に、母校沖尚の監督としてチームを率いた比嘉監督は、春の第

八〇回選抜で何と二度目の優勝を果たしたのである。この時はエースの東浜投手が大活躍した。

そして冒頭の昨年夏の甲子園で優勝し、今度は深紅の大優勝旗を手にしたのであった。春夏計三度の優勝である。比嘉監督も素晴らしい指導者の一人である。

また、一九六八年夏に「興南旋風」を起こした時の主将で四番打者であった興南高校の我喜屋優監督も素晴らしい指導者の一人である。

我喜屋監督は、二〇一〇年春の第八十二回選抜で、エースの島袋投手を中心にした全員野球で全国制覇を果たした。その時、何の因果か決勝戦はあの日大三校だったのである。春の勢いで夏の第九十二回選手権も制覇して、史上六校目の春夏連覇を果たし、またまた県民を熱い熱狂の渦に巻き込んだ。

沖縄県は、沖尚の春二回、夏一回そして興南の春、夏連覇で計五回も優勝し、今や他県が一

フードバンクご協力をお願い

電友会うないより、会員の皆様へお歳暮等で使用見込みのない食料品、紙オムツ等の提供をお願いします。

- ・期 間 令和8年1月13日(火)～1月30日(金)
- ・場 所 電友会事務所(NTT那覇ビル3F)へ持込
- ・贈呈先 NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄
- ・食料品 米、缶詰、調味料、お菓子、飲み物(*アルコール不可)
※賞味期限1か月以上残っているもの
- ・その他 紙オムツ、タオル、洗剤、生理用品など新品

※今回は、電友会うないの取り組みとなります。また、電友会うないはサポーター団体として登録されています。



目置く、押しも押されぬ強豪県に成長した。首里高校の初出場から六十八年、出ると負けの県高校野球の黎明期を考えると、本当に隔世の感を禁じ得ない。

各県代表チームが群雄割拠する甲子園で、優勝するチームに何が必要かを考えた時、そこには必ず戦略と戦術に優れた指導

者の元に、才能豊かな選手たちが千載一遇のチャンスで巡り会い、そして実力だけでなく、運も味方して優勝という奇跡が起きるのだらうと思う。

奇しくも戦後八〇年の節目に、沖尚の優勝でますます県民の野球熱、野球愛は高まっていくことだろう。

短歌

宮城 章

(平成五年三月退職)

早朝のラジオ体操ちやちゃんこ
昼は牛歩の基会所通ひ

冬議会の仮定の有事論争の
独り合点に中国怒る

採め事に触らぬ神に祟りなし
ニッポン軍の蹉跎忘るな

地政学の基地の定め^の儘ならば
シエルター準備思ふこの頃

中学の孫の勉学気に掛かり
偉人伝など与え続ける

親が子の躰けの甘き令和今
子ら尊厳の固執気になる

孫と子が有り難ふと言ふ様は
我が教へし昭和の躰け

俳句

宮城 章

(平成五年三月退職)

父祖を世を友らを崇め千代の春

美ら海をサバニが馳する小春かな

新北風や東志那海棚曇る

戦闘機飛び立つ冬のJアラート

初冬の舌禍に曇る憂き世かな

糸満の喜舎場盛弘さんを悼む

篤実の喜舎場氏が逝く秋思かな

首里の比嘉健二さんを悼む

厳格の健二氏が逝く冬銀河

普久原 朝昭

(平成二十七年三月退職)

日盛りのカフェに琉球泡グラス

蜻蛉^{とんぼ}や孫の手を引く爺となり

獅子衣繕ひ立てる三日月^{みづかづき}

秋風や言づてもなく人は去り

恐々と福毛切らるる小春の夜

仲本 榮章

(平成十四年四月退職)

雪が降る天地無情の剥き出しに

爆撃もひとつのチャネルか月冴ゆる

冬鷺や低空飛行の露払い

帆は走るウィンドサーフィン冬麗ら

清らかに白き山茶花問うてくる

暮の町子らが歌うは「新世界」

川柳

村吉 政常

(平成十二年三月退職)

物価高 節約します 腹八分

OB会 あなた誰かと ご挨拶

特売日 五円安いは 五キロ先

怖いハブ ハブよりひどい 熊被害

無き叔母の 面影濃ゆし 従妹逝く

琉歌

知花 賢宜

(平成二十七年三月退職)

大和アマクマに アマハイクマハイ

沖縄アマクマに あウリミバエ

七十六ぬ我した 後期高齢者^{ななとむ}

あま痛みくま痛み バンジ証拠^{すし}

今日ナハマラソン ウレーマサ若者

昔あんやたん 我ん肝肉

あくがりぬ大和 日本になたしが

なゆんちなららん 忍苦^{しんく}心

大和アマクマに アマハイクマハイ

沖縄アマクマに あオスプレイ

沖縄電友会サークル活動のご紹介

サークル名	実施日	場 所
空 手 同 友 会	毎週 日曜日 午前9時～12時	OB サロン (那覇ビル 3F)
ゴ ル フ サ ー ク ル	毎月 第三木曜日 午前6時30分～	沖縄カントリークラブ
マルチメディア同好会	毎月 第一月曜日 午後2時～	絆 (那覇ビル 3F)
尺 八 サ ー ク ル	毎週 火曜日 午後1時30分～	絆 (那覇ビル 3F)
三 線 サ ー ク ル	毎月第二・四土曜日 午前9時～12時	OB サロン (那覇ビル 3F)
	毎月第一・三・五土曜日 午後1時～3時	
フ ォ ト サ ー ク ル	毎月第四火曜日 午後8時～	ZOOM (自宅)
中 国 語 サ ー ク ル	毎月第二・四土曜日 午前10時～	Webex (自宅)
宮古グラウンドゴルフサークル	毎月 15 日 午後2時～	ビルマスパーク

いずれのサークルも初心者の入会を歓迎します。入会は、年度途中からでも、何時でも出来ますので、ご遠慮なくご連絡下さい。

昔の仲間や先輩達と一緒に余暇を楽しみ、趣味を生かして豊かな人生を共にしたいものです。是非ご入会をお勧めします。又、こういうサークルを作りたいとか、作ってほしいとかの要望がありましたらぜひ事務局までご一報下さい。

☆連絡先 ☎ 098-831-2086 電友会事務局まで
メール okiden@mocha.ocn.ne.jp



毎月第三木曜日 朝7時スタート
ホームコース:沖縄カントリー倶楽部(西原町)



2025年1月～12月の上位成績表

月	順位	氏名	グロス	HP	Net	月	順位	氏名	グロス	HP	Net
1月	優勝	上原春美	92	26	66	7月	優勝	栗国芳信	101	25	76
	二位	新垣 靖	88	17	71		二位	足立清志	94	16.5	77.5
	三位	與那原正勝	101	30	71		三位	金城 勇	84	6	78
2月	優勝	奥濱英勝	90	25	65	8月	優勝	與那原正勝	91	21.6	69.4
	二位	足立清志	95	23	72		二位	小波津忠	94	20.8	73.2
	三位	慶田永孝	95	21	74		三位	上原春美	92	18.2	73.8
3月	優勝	桃原次男	97	30	67	9月	優勝	友利 克	80	7.5	72.5
	二位	小波津忠	94	26	68		二位	金城 勇	78	5.4	72.6
	三位	足立清志	89	18.4	70.6		三位	栗国芳信	94	17.5	76.5
4月	優勝	上原正光	89	19	70	10月	優勝	金城 勇	75	4.3	70.7
	二位	宮城教一	83	8	75		二位	慶田永孝	91	18.9	72.1
	三位	大橋宗純	91	16	75		三位	栗国芳信	93	15.7	77.3
5月	優勝	友利 克	86	12	74	11月	優勝	仲本榮章	101	27.0	74.0
	二位	與那原正勝	102	27	75		二位	宮城教一	81	6.4	74.6
	三位	新垣 靖	90	13.6	76.4		三位	喜瀬眞史	100	24	76.0
6月	優勝	新崎貴也	78	10	68	12月	優勝	大橋宗純	79	14.4	64.6
	二位	望月 毅	105	34	71		二位	慶田永孝	89	15.1	73.9
	三位	友利 克	80	8.4	71.6		三位	新垣 靖	88	12.2	75.8

事務局からのお知らせ

1. 沖縄電友会ホームページが新しくなりました

- ① 沖縄電友会で google 検索（さくらインターネット）または
- ② <https://okinawadenyukai.sakura.ne.jp> アドレスを入力



【掲載内容】メニューから選択

- ・ トップページ：会の紹介・目的・会則・役員名簿
- ・ 会員の情報：訃報・ボランティア活動・サークル活動
- ・ 事務局からのお知らせ：イベント等お知らせ
- ・ 会報誌：PDFで閲覧可能
- ・ リンク(他のHPが見れます)：電友会本部、NTTグループ、年金基金他

2. 年会費の納入について（未納の方）

会費未納の皆さんへ、「払込取扱票」か「銀行振込」で支払いをお願いします。

- ・ 郵便局 ⇒ 同封の「払込取扱票」による
- ・ 銀行振込 ⇒ ①琉球銀行 寄宮支店（普通）1025317
②沖縄銀行 二中前出張所（普通）1454448
③沖縄県労金 本店（普通）3517057

口座名義は、いずれも 沖縄電友会 会長 仲本榮章

3. 原稿募集について（夏季号：6月末・新年号：前年11月末締め切り）

随筆、随想、日記、旅行記、近況報告、短歌、俳句、川柳、琉歌、その他ご意見、情報等をお寄せ下さいますようお願い致します。

近況・雑感

（ハガキ短信 120 字以内）

がんじゅう広場

健康・趣味（400 字 2 枚程度）について日常から会得、実践していることにタイトル・氏名を付記する。

文芸コーナー随想

（400 字×4 枚程度）自分の思いや感想などにタイトル・氏名を付記する。

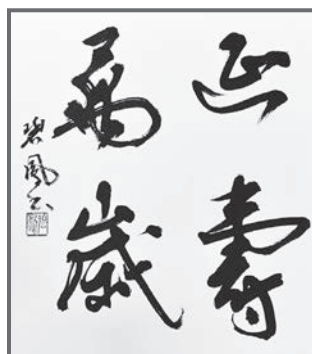
○会員の訃報は、事務局へご連絡下さい。弔意を差し上げることになっております。

○ボランティア活動されている方（個人又は団体）は、その活動状況を電話等でお知らせください。

表紙の説明

えんじゅばんざい
延壽萬歳

寿命の限りないことを祝って
いう語。



今年も会員皆様が健康で楽しく過ごせますよう祈念いたしております。

大城 稔（碧鳳）書

大城稔さんは、冲展会員、龍賓沖縄書道会の副会長で、二〇二四年度沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞するなど、第一線で幅広く活躍している書道家であります。

（事務局記）

新年あけましておめでとうございます。

★ 昨年は、戦後八十年で改めて平和の尊さを
実感しました。復帰五十三年が経過しても、
未だ沖縄の基地機能は強化され新たな基地建
設も進んでいます。離島においても防衛とい
う名目で武器・部隊を増強し、台湾有事の際
は、離島住民は九州各地へ避難するという計
画で予行演習まで行いました。私たち沖縄県
民は、万国津梁（ばんこくしんりょう）の精
神で、近隣諸国との交流により信頼関係を築
いてきた歴史があり、「ぬちどう宝」や「ユ
イマール精神」を継承してきました。

昨年、肝ドンドンしたのは、「沖縄尚学高
校夏の甲子園初優勝」、久々の県勢優勝で熱
い夏を過ごしました、もう一つはメジャー
リーグのワールドシリーズで日本人トリオが
活躍した「ドジャースの2連覇」ではなかつ
たでしょうか？ 日本のプロ野球よりもメ
ジャーリーグ中継をみる機会多くなってきま
したが、プロ野球界のウチナンチュも忘れ

てはいけません。ソフトバンクの山川穂高選
手は日本シリーズのMVP、オリックスの宮
城大弥選手は日本を代表する投手の一人、巨
人軍の大城卓三選手、砂川リチャード選手も
注目され毎年県出身者が入団しています、い
つかの日かウチナンチュがメジャーリーグ
中継に登場し活躍してほしいと思います。

★ また、昨年は沖縄電友会のホームページの
更改があり、電友会本部と連携し項目別にこ
れまで以上に見やすい画面構成としました。
今後も事務局からイベント等最新情報を発信
していきますので、会員の皆様はHPを通し
て各種情報を共有し「繋がって」いきましょう。

★ さて、今年二〇二六年は「丙午（ひのえう
ま）」という年で、情熱と推進力にあふれ物
事を大きく飛躍させるチャンスがある一方、
勢いに任せた行動には注意が必要な年とされ
ています、新年号にはトウシビーを迎える昭
和二十九年生に原稿をお寄せいただき、あり
がとうございました。

★ 最後に沖縄電友会は、人生一〇〇年時代を
迎え皆様が健康で充実したシニアライフを
過ごして頂く一助として各種サークル活動を
行っております、各サークルとも皆様を歓迎
します、参加してみませんか、そして本
年も皆様が健康で日々安全にお過ごし頂ける
よう祈念しております。

（事務局…小波津忠）

編 集 発 行	電友会沖縄地方本部事務局(沖縄電電同友会)
〒902-0064	那覇市寄宮1-3-37
	N T T那覇ビル内
電 話	(098)831-2086
F A X	(098)833-0342
印 刷 所	合同印刷
〒903-0807	那覇市首里久場川町1-117-5
電 話	(098)887-1066